

令和4年 2月26日

桜台自治会の現状分析と目指す姿

SKP 事務局

1. はじめに

高齢化が進む桜台自治会の改革を進めるにあたり重要なことは、大きく変わらざるを得ないコロナ禍後そして近い将来、自治会はどこを目指して行動すべきか、という会員の共通意識、総意の醸成である。それが無い改革は自治会を破滅に追い込む可能性さえある。

桜台自治会そして会員が目指す自治会とは何か検討する。

2. アンケートから見えてきた現状

高齢化が進む桜台自治会が抱える問題を踏まえて、令和2年度、3年度に実施したアンケートから見えてきたことは

- (1) 桜台自治会では多くの会員が、今まで進めてきた自治会活動のやり方では限界にきているという切実な想いが寄せられた。
- (2) 高齢化に伴い理事、班長は、数年後には引き受けられなくなると考える会員が、80%近くいる。また役員免除制度があればいいと考える会員が90%もいる。特に自治会の幹部として動かなければならない地区長、副会長を引き受けてもいいという人がわずか27人と、大変な事態が迫っていることを示していた。
- (3) 70%の人が、役員には役員報酬を払ってもいいと言っているぐらい、今の役員業務は難儀だとして、できればやりたくないと思っている。
- (4) 盆踊りが中心の夏祭りは、以前から準備が大変なことからいろいろ問題点が指摘されてきたが、40%の人が継続を希望していることは、これからも桜台を夏祭り等で盛り上げていこうとする会員の意気込みが感じられる。特に子供神輿については50%の人が続けるべきと言っており、桜台を盛り上げていくために若い人や、こどもたちへの期待が大きい。
- (5) 一方、フェスティバル、夏祭り等のイベント縮小の見直しを提案する人が70%いた。
- (6) 90%の会員が、役員業務の大きな負荷になっている専門部活動を根本的見直ししたほうがいと提案している。

3. めざす姿とは

今 SKP プロジェクトで進めている改善は、ほとんどが現会則の範囲内で可能な改善であるが、今自治会に求められている新たな目指す姿は何か、を見据えた上で改善を進めていくことが重要である。

そのためには直前の2回のアンケート結果だけでなく、今までの自治会活動の総括を踏まえて、ここで改善に取り組まなければ高齢化がさらに進む数年後に予測される自治会の姿、10年後の望まれる姿を描いて、今まで自治会が目指してきたところのどこを変え

ていくべきか明らかにし、持続可能な自治会を目指す必要がある。

3.1 今までの自治会活動の総括

- (1) 桜台自治会は 1200 世帯を抱える桜台団地の大きな地縁組織として、約 40 年にわたり自治会活動を展開し、その活動ぶりから市原市では模範とすべき自治会に成長してきた。
- (2) 防災、防犯、生活環境、文化体育、福祉、イベント企画、広報の 7 つの専門部が組織され、活発な活動を展開してきた。
- (3) 盆踊りや子供神輿の夏祭りや、文化・教養の発表会となるフェスティバル等イベントは、自治会活動の成果と発展を誇り、近隣自治会をリードしてきた。桜台を育ち旅立った子どもたちにとって、「誇らしいふるさと」の行事として貢献してきた。
- (4) また、地域内に深代池やグラウンドを配置する中央公園、3か所の子供公園があり、緑が多く静かな住環境は、会員の公園愛護活動、道路定期清掃や花ボランティア、防犯パトロールの活動で、維持されてきた。
- (5) 自治会館に住民サービスのための事務所を開設し、事務員や日直者を配置することで、地域内で発生する問題やクレームに対して迅速に対応できるようにし、安心して住める住環境を確保してきた。
- (6) 自治会としては大きな自治会館を持つことで、この施設を利用した趣味・教養のサークルや健康体操等の活動が活発で、会員の相互信頼や親睦に寄与してきた。
- (7) 自治会活動が評価された結果として、会員入会率 95%を誇り、助け合いの精神と地域貢献の志のもとで、大きなトラブルもなく安全・安心な地域になっている。
- (8) 高齢化に伴いお亡くなりになった人が増え、また桜台を離れる人が多くなって、空家・空き地が増えているが、静かで安全な住環境を求めて新規入居者も増えてきており、ここ 2、3 年、転入退去者はバランスしてきている。しかし高齢化率(65 歳上)が 50%を超え、ピーク人口年齢が 73 歳と、高齢化が引き起こす問題はこれから 10 年が勝負になると思われる。
- (9) 高齢化問題は以前から予想されたにもかかわらず、現実感が乏しく大きな手を打ってこなかったことは反省される。

3.2 改善が実施されない場合の予測される数年後の自治会の実態

- (1) 半数の会員が輪番制で決めてきた役員ができなくなっている。残された半数の会員に役員を回すことになって、不公平感が増している。
- (2) 役員ができなくなった会員の中には、自治会を退会する人が増えて、自治会入会率が低下し、会費収入が減り自治会活動が下降線をたどる。
- (3) ピーク人口年齢が 78 歳となって、役員年齢がさらに上がり専門部活動が停滞している。
- (4) 余裕のある人が少なくなり、助け合いや支え合いの精神が見られなくなっている。

- (5) 防犯パトロールや花ボランティア、婦人会や桜台倶楽部のボランティア活動、お助けマンのボランティアができるメンバーが少なくなって、活動が難しくなっている。
- (6) 手がかかる夏祭りやフェスティバルとは完全中止に追い込まれている。
- (7) 自治会活動に携わる若い人がいないために、自治会の将来展望が見えなくなって、自治会の存続そのものが心配されている。
- (8) 自主防災組織は絵に描いた餅で実質的活動はできない状態に追い込まれている。
- (9) 空き家が200軒に達し、放置されている空き家が多くなり、さびれた景観が目立ってきている。
- (10) 非会員が増えたため、ごみステーションの管理がうまくいかず、もめごとが多い。
- (11) 多くの高齢者を少ない若い世代が支える自治会になっており、交通や買い物に不便なこともあって転入者が増えず、若者や子供が少なく活気がない地区になっている。

3.3 今、取り組まなければならないことは何か

- (1) 高齢化が進んで役員を免除してもらいたい人が増えても、まだまだ動ける人が中心となって自治会活動を盛り立てていくことができるようにする。
- (2) 会長、副会長、地区長、理事、班長等の役員の定常的業務を極限まで減らして、マニュアル化することで、誰でも何時でも容易に役員業務を引き受けやすくする必要がある。
- (3) 高齢化で役員ができなくなったことを理由に、また自治会活動に不満をもって退会することがないように、会員が必要とする自治会にしていかなければならない。
- (4) 専門部活動を見直し、負担がかからないものにする。とくに、労力のかかる夏祭りやフェスティバルの見直しが急務である。
- (5) お互いが思いやりの心を触れ合わせ、助け合いの精神で、支援が必要な人を支えていく活動を推進することが必要である。弱者に寄り添う活動の在り方を見直す。
- (6) ボランティア精神が旺盛な人で体が元気で動ける人は、何らかのボランティア活動に参加するようにする。
- (7) 自主防災活動が会員の高齢化を前提に見直されており、災害想定の下、現実的な行動ができるようする。
- (8) 緑が多く静かで清潔な住環境を今後も維持していくために、生活環境活動を重視する。
- (9) 防犯、防災、生活環境や桜台地区の家屋の資産価値維持の上からも、空き家空き地問題は避けて通れない問題であるが、自治会として放置されないように取り組むこと必要がある。
- (10) 自治会活動の中心として期待されている60歳から80歳の会員に、自治会の窮状を知ってもらい、進んで自治会活動に参加していただけるようにする。
- (11) 次の時代を背負っていく若い世代を自治会活動に巻き込み、新しい自治会に向けた活動に参加していただく

- (12) 広報活動は、自治会の実態を共有し改善活動を展開するために非常に重要になる。会員に必要とされる広報の在り方を徹底的に追及する必要がある。

3.4 10年後の自治会の目指す姿

10年後の桜台地区は、買い物や交通が多少不便でも、緑豊かで静かな住環境が維持され、小学校、幼稚園が近く子育てがしやすいと評判で、リフォームされた空き家が比較的安く購入できることもあって、若い人には人気の団地になっている。若い人に負担の少ない自治会活動が展開されていることも大きな魅力になっている。

- (1) 若い世代の転入者が増え、子供たちの元気な声が響き渡る地域になっている。

- ① 公園に遊具がいっぱい
- ② こども用バスケットコートがある
- ③ 子供用ミニサッカーコートがある

- (2) 子育てがしやすい環境がある。

- ① 自治会にママが集まる子育てサロンがある
- ② 自治会に子供預かり支援、学童保育が行われている。
- ③ 絵本の読み聞かせなどのボランティアが活躍している
- ④ 自治会館に絵本がいっぱいの子ども図書館、勉強を教えてもらえる学習室がある。

- (3) シニアが子育てを支援する活動に取り組んでいる

- ① 無料学童学習支援教室がある
- ② 校区の資源ごみ回収を自治会が支援している。

- (4) 現役世代が地区活動に熱心でシニアが一体となってふるさとづくりに支援

- ① 子供神輿やまつり太鼓などが盛ん。
- ② 夏休みキャンプや海浜学校などの行事が自治会の支援で行われる
- ③ 夏休みラジオ体操やお化け大会などが子供に人気。
- ④ 餅つきやクリスマスなどの行事が子供中心で行われている

- (5) 元気なシニアが多く、交流を楽しんでいる。

- ① 健康体操、ダンスなどの体を動かす教室が盛ん
- ② 自治会館にシニア用小規模ジムがある
- ③ カラオケ、ギター、合唱、詩吟、民謡、大正琴、オカリヤなどの音楽系のサークルが多い
- ④ シニアサロンがあり、軽食が出て心を許して楽しむところがある
- ⑤ 防犯、生活環境等のボランティア活動が盛んで、現役世代を応援している

(6) 困っている人の支援が盛んで、各種相談室がある。その道の経験者がボランティアで相談に乗る。

- ① 介護や生活で困っている人からの相談
- ② リフォームや家の修理の相談
- ③ 子育て相談
- ④ 学習相談
- ⑤ 近所問題相談
- ⑥ 相続相談
- ⑦ 空き巣対策等防犯相談
- ⑧ 暴風雨対策相談

(7) 防犯、防災活動が盛んで安全安心な地域になっている

- ① 防犯防災意識が高く、防災活動、防災活動は他の自治会の模範となっている
- ② 地域が防犯カメラで守られ、空き巣ゼロが実現している。

(8) 会員員入会率90%以上キープ

(9) 互助会組織の「お助けマン」がさらに発展し充実している。

4.5 高齢化が進む桜台自治会の改革をめざして

- (1) 役員の業務を削減し誰でも引き受けやすくなるようにする。
- (2) 専門部活動を見直し、役員にとって負担にならないようにする。
- (3) 夏祭りやフェスティバル等のイベントを見直し、役員の負荷を減らす。

以上